

特集ワイド: 再び米国の言いなり? 安保大転換、イラクの失敗「置き去り」

毎日新聞 2015年05月21日 東京夕刊より



派遣先のイラク・サマワで宿営地付近を警戒する陸上自衛隊員。海外活動の拡大で危機が増すことはないのか＝2004年、加古信志氏撮影

世の中に絶対はない、という。だが、安全保障政策を転換し、自衛隊の海外活動を拡大しようとする安倍晋三首相は「米国の戦争に巻き込まれることは絶対にあり得ない」と言い切る。ちょっと待ってほしい。日本は12年前、イラクを攻撃した米国を支持したが、大義名分とした大量破壊兵器は発見されていない。イラク戦争の失敗を繰り返すことはないのか。【石塚孝志】

◇原発事故同様、検証進まない日本／「国益損ねた」教訓にする英国

「日米同盟はより一層堅固になる。この夏までに必ず実現する」。安倍首相は4月30日未明（日本時間）、米議会の上下両院合同会議で、日本の国会に法案さえ提出していない集団的自衛権の行使容認を含む安保法制の整備を進めると明言した。米国に対し、自衛隊が地球規模で米軍への後方支援を行うことを“公約”したのだ。

問題は、米国から自衛隊派遣の要請を受けた時、日本は自主的な判断で可否を決めることができるのかという点だ。軍事ジャーナリストの前田哲男さんはこう危惧する。「安全保障関連法案が成立すれば、日本は自衛隊の派兵を断る根拠としていた集団的自衛権の行使禁止や専守防衛を放棄することになります。そうなれば、日本は米国の言いなりになる公算が大きい」

米国の言いなり一。実はイラク戦争でも指摘されていた。小泉純一郎首相（当時）は米国のイラク攻撃を国際社会の中でいち早く支持。米国から「ブーツ・オン・ザ・グラウンド（地上に靴を）」と求められると、フセイン政権崩壊後にイラク特措法を制定し、非戦闘地域での復興支援や多国籍軍の物資や兵隊の輸送を担った。

しかし、米国が開戦理由とした大量破壊兵器は見つからなかった。この点について、小泉首相は「（米国を支持した）日本の判断は正しかった」などと釈明したが、米国に追随しただけでは、という疑問を消す答えはいまだにない。

そもそも日本はイラク戦争を支持した政策判断をきちんと検証しているのだろうか。・・・（中略）

日本の検証はお粗末と言えそうだが、なぜ検証は進まないのか。「永続敗戦論」などの著作がある京都精華大の白井聡専任講師（政治学）はこう語る。「日本がイラク戦争を本気で検証すれば、米国の強引な手法や判断ミスで自衛隊が危険な目に遭う可能性が高いことが分かる。それでは今後、日本は米国に追随できないという困った事態になってしまう。原発事故の検証も同じ。再稼働を念頭に置いているので本気で検証しているとは思えない。いずれにしても結論ありきなのです」。日本は「敗戦」を「終戦」とごまかし、それを容認してくれる米国には従属を続け、敗北が際限なく続く一。こう主張する白井さんの分析だ。・・・続きも必読ですが、略

新緑の黒部峡谷 リフレッシュの時間をありがとうございました

トロッコ電車からのすばらしい景色、宇奈月温泉のホテルの窓に猿が。早朝散歩でも猿が。2日目は、海王丸パークで総帆展帆作業を見てきました。

